

別添資料 1

10 施工時の留意点

10-1 残土処理計画

10 施工時の留意点

10-1 残土処理計画

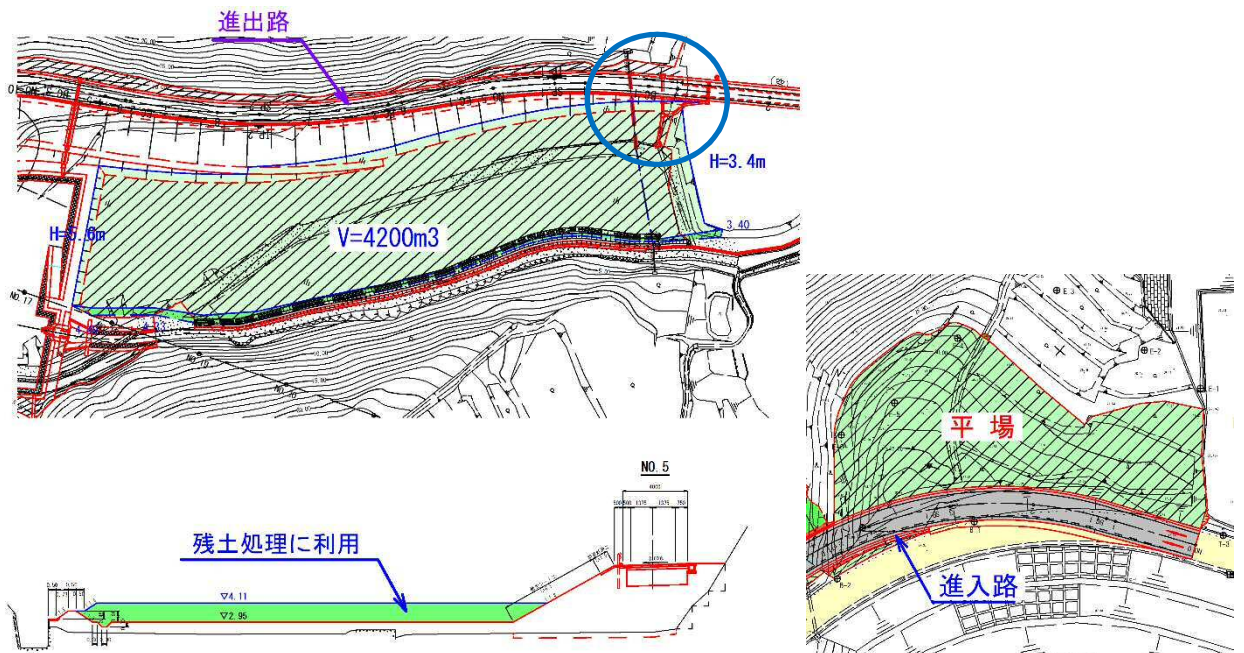
(1) 土工バランスについて

造成計画での残土量は、 -10.2 m^3 となっていて建設予定地を含む全体の土工バランスは図られている。

今後ごみピット分の掘削土量が発生するため、施設建設に伴う全体の土工バランスを図る必要があり、進出路 NO. 3～NO. 9 付近左側の土地を利用して調整池の天端高 $\text{EL}=5.60\text{m}$ から、起点側の平場高 $\text{EL}=3.40\text{m}$ 間を約 1.53% の勾配で埋め上げた場合の盛土容量を検討した。

ごみピットの容量が現時点で明確でないが、約 4200m^3 が処理できることを確認した。

ただし、この容量を超える残土量が発生した場合には、進出路起点側に計画している平場の掘削高さの調整等が必要となる。



(2) 埋め上げに伴う排水計画・水道管の防護計画について

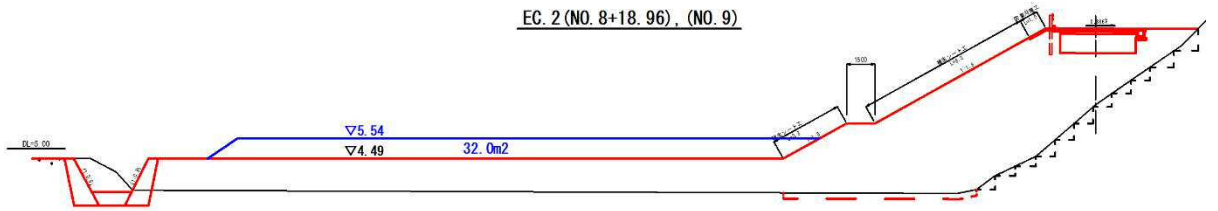
上記 1 で記述した埋め上げた場合の留意点として、進出路の NO. 3 付近青丸で示した箇所の道路排水処理方法は、路面排水を横断暗渠及び横断側溝で法面下の既設 BOX (700×700) に集水桝で接続して排水する計画であるので、盛り上げることで排水計画の再検討が必要となる。

水道管についても、進出路を計画している区間の既設管は防護コンクリートで巻き立てて保護する計画であるが、後で調整地まで計画する管理用道路の線形によっては保護する範囲の見直しも必要であると思われる。

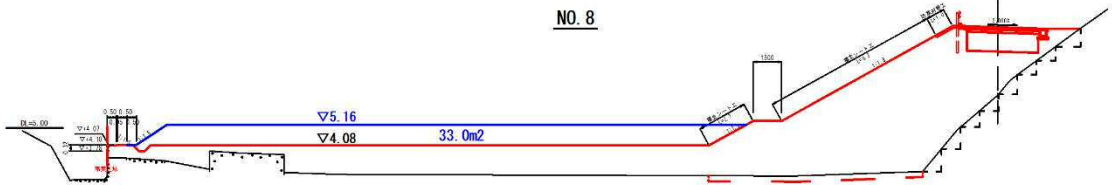
次頁より、残土処理計画横断図・土工計算書を添付する。

(残土処理計画横断図)

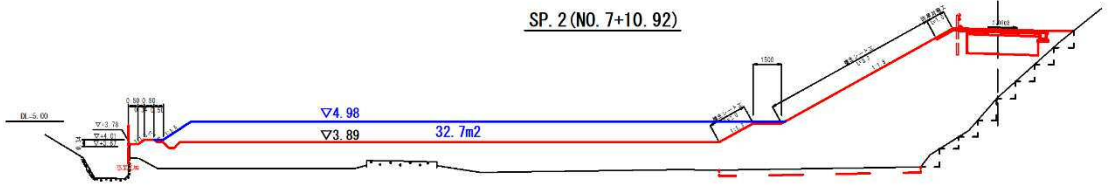
EC. 2 (NO. 8+18. 96) , (NO. 9)



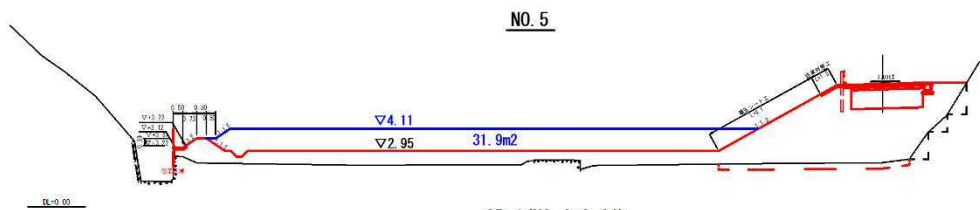
NO. 8



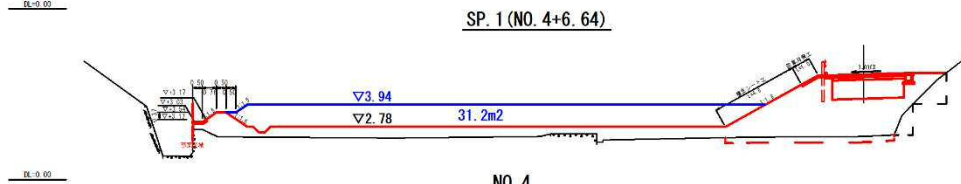
SP. 2 (NO. 7+10. 92)



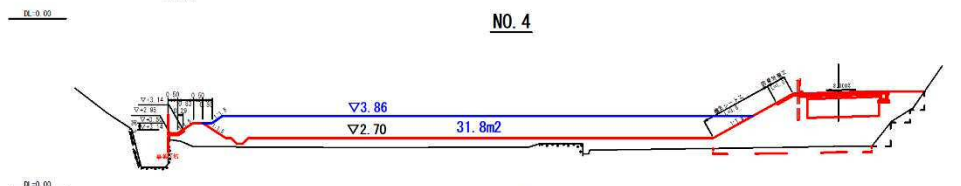
NO. 5



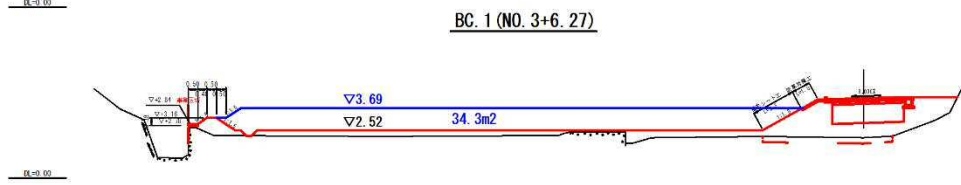
SP. 1 (NO. 4+6. 64)



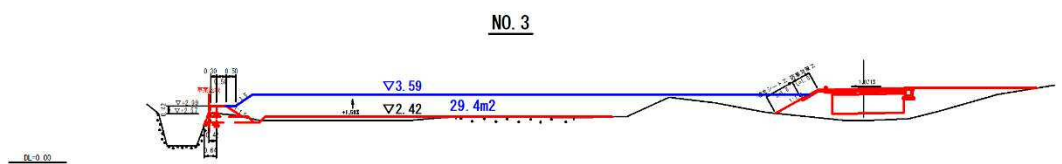
NO. 4



BC. 1 (NO. 3+6. 27)



NO. 3



土 積 等 計 算 表

路体盛土	m ³	
		4,204.6

進出路 曲線部は図心距離

甲 号 【 土 積 等 計 算 用 紙 】

測 点	区 間 距 離	路体盛土			区 間 距 離			
		断 面	平 均	立 積		断 面	平 均	立 積
2 + 11.00								
NO. 3	9.00	29.4	14.70	132.3				
BC. 1								
NO. 3 + 6.27	6.27	34.3	31.85	199.7				
NO. 4	12.09	31.8	33.05	399.6				
SP. 1								
NO. 4 + 6.64	5.83	31.2	31.50	183.6				
NO. 5	11.65	31.9	31.55	367.6				
EC. 1								
NO. 5 + 7.01	6.05	32.1	32.00	193.6				
NO. 6	12.99	32.5	32.30	419.6				
BC. 2								
NO. 6 + 2.88	2.88	32.5	32.50	93.6				
NO. 7	19.84	31.6	32.05	635.9				
SP. 2								
NO. 7 + 10.92	12.80	32.7	32.15	411.5				
NO. 8	10.73	33.0	32.85	352.5				
EC. 2								
NO. 8 + 18.96	22.53	32.0	32.50	732.2				
小 計	132.66			4,121.7				
累 計	132.66			4,121.7				

曲線部は図心距離

[illegible]

土工図心間距離計算書

【進出路】

[illegible]
$$\text{同心間距離 } L = L_1 \times (R - \Delta R) / R$$
$$\Delta R = (\Delta R1 + \Delta R2) / 2$$

(ΔR の符号は外カーブに於いて正、内カーブに於いて負である。)